

# 秋季の乾燥が

# オリーブの果実にどのような影響を及ぼすのか？

小豆オリーブ研究所 豊嶋貴司、多田寿和子、田中利幸（現 農業生産流通課）

## 1 はじめに

オリーブの栽培面積が全国的に増加する中、国内トップ産地である本県では、これまでの地位を維持するため、生産量の確保やオイルを含めた加工品の品質の維持・向上が求められています。特に、オリーブオイルは、栽培期間中の天候によって採油量や品質への影響が大きいとされますが、その要因についてよく分かっていませんでした。そこで、品種「ミッション」を用いて品質への影響が大きいと思われる、果実肥大期後半の土壌水分の管理に着目し、この時期の水管理方法がオリーブ果実にどのような影響を及ぼすかを明らかにしました。

表1 試験区の状況

試験区	乾燥処理期間	灌水期間	備考
前半乾燥区	8月19日～9月30日	10月1日～10月31日	○各区ともに8樹を使用し、両端の樹を除いた6樹を調査対象とした。 ○灌水期間は、30mm程度/週の灌水を実施。各区の投入灌水量：135mm
後半乾燥区	9月20日～10月31日	8月19日～9月19日	
対照区	試験期間（8月19日～10月31日）を露地栽培・自然降雨のみとした		○8樹を使用し、両端の樹を除いた6樹を調査対象とした。 ○試験期間の降水量（内海アメダス）：242mm

マルチシートはタイベックマルチを使用

試験区の灌水資材は点滴チューブを使用

試験区は気象台データ（内海アメダス）の期間降水量の半分の灌水

## 2 結果

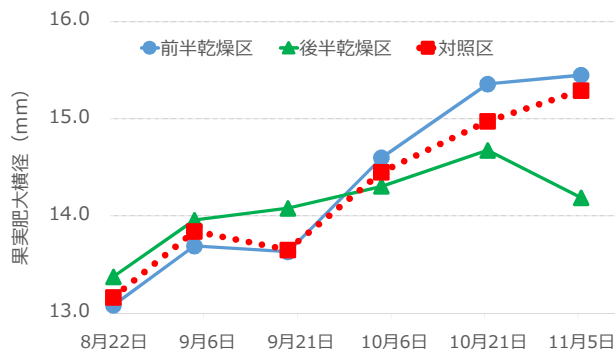


図1 果実肥大 横径の推移

前半乾燥区は10月に灌水を行うことで、肥大が回復します。

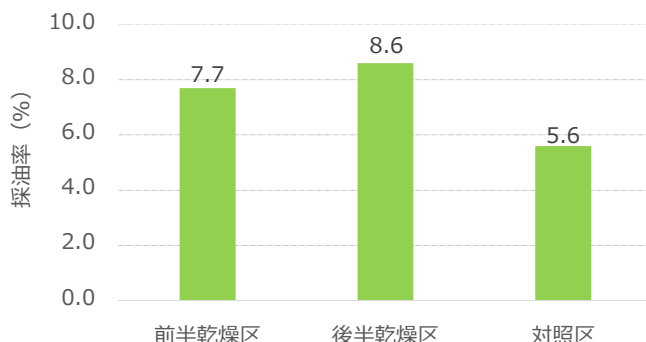


図2 収穫した果実のオイル採油率

前半乾燥区、後半乾燥区ともに採油率(%)が向上しました。



写真 収穫直前の試験樹

表2 オリーブオイルの官能評価結果

試験区	フルーティ	苦味	辛味	欠陥
前半乾燥区	3.7	3.8	3.7	0.0
後半乾燥区	3.6	3.6	3.3	0.0
対照区	3.7	3.7	3.5	0.0

採油したオイルを官能評価した結果、各区とも大きな差はなく、フルーティ(fruity)・苦味(bitter)・辛味(pungent)の項目で良好な数値でした。また欠陥(好ましくない特性)はありませんでした。

- 採油率の向上により、秋雨の雨量に影響されず一定の採油量が確保できます。
- 大規模面積での導入は労力的にも困難です。まずは管理が行き届く小面積から取り組むことをお勧めします。

## 3 おわりに

- 乾燥期間中の高温・乾燥により、果実の萎縮が続く場合は少量の灌水を実施しましょう。
- 過度の乾燥処理は樹体への負担が大きいため、収穫後は礼肥の施肥と十分な灌水を行って樹勢の回復に努めましょう。
- 樹が衰弱している園地では、この技術は導入しないでください。